

東北大学災害科学国際研究所 令和6年能登半島地震に関する報告会
(第85回IRIDeSオープンフォーラム)

令和6年能登半島地震後一か月間の メンタルヘルスニーズ

國井 泰人

東北大学 災害科学国際研究所 災害精神医学分野

2024年5月8日 (水) 13:00-15:30 オンライン形式 (ZOOM+YouTube)

令和6年能登半島地震におけるメンタルヘルス支援活動

■ DPAT (Disaster Psychiatric Assistance Team) 調整本部の活動



令和6年1月6日(土)午後1時に、中部ブロック及び東北ブロック等の都道府県あてに災害対策基本法第74条に基づく、石川県へのDPAT派遣要請を受け、宮城県DPAT調整本部設置、富田、國井は統括として参画。先遣隊及び後続チームの派遣調整開始。1月7日13時、先遣隊第1陣出発。

■ 日本精神神経学会災害支援委員会



公益社団法人 日本精神神経学会
The Japanese Society of Psychiatry and Neurology

被災地域の精神医療保健従事者や外部から支援に入る人への災害メンタルヘルスや災害救援に関する情報提供のための特設HPの立ち上げ、講演、研修、過去の災害の経験の共有の機会を提供するためのコーディネートに取り組んでいる。

■ 北陸精神神経学会特別企画緊急オンライン講演会

北陸精神神経学会
the Hokuriku Society of Psychiatry and Neurology

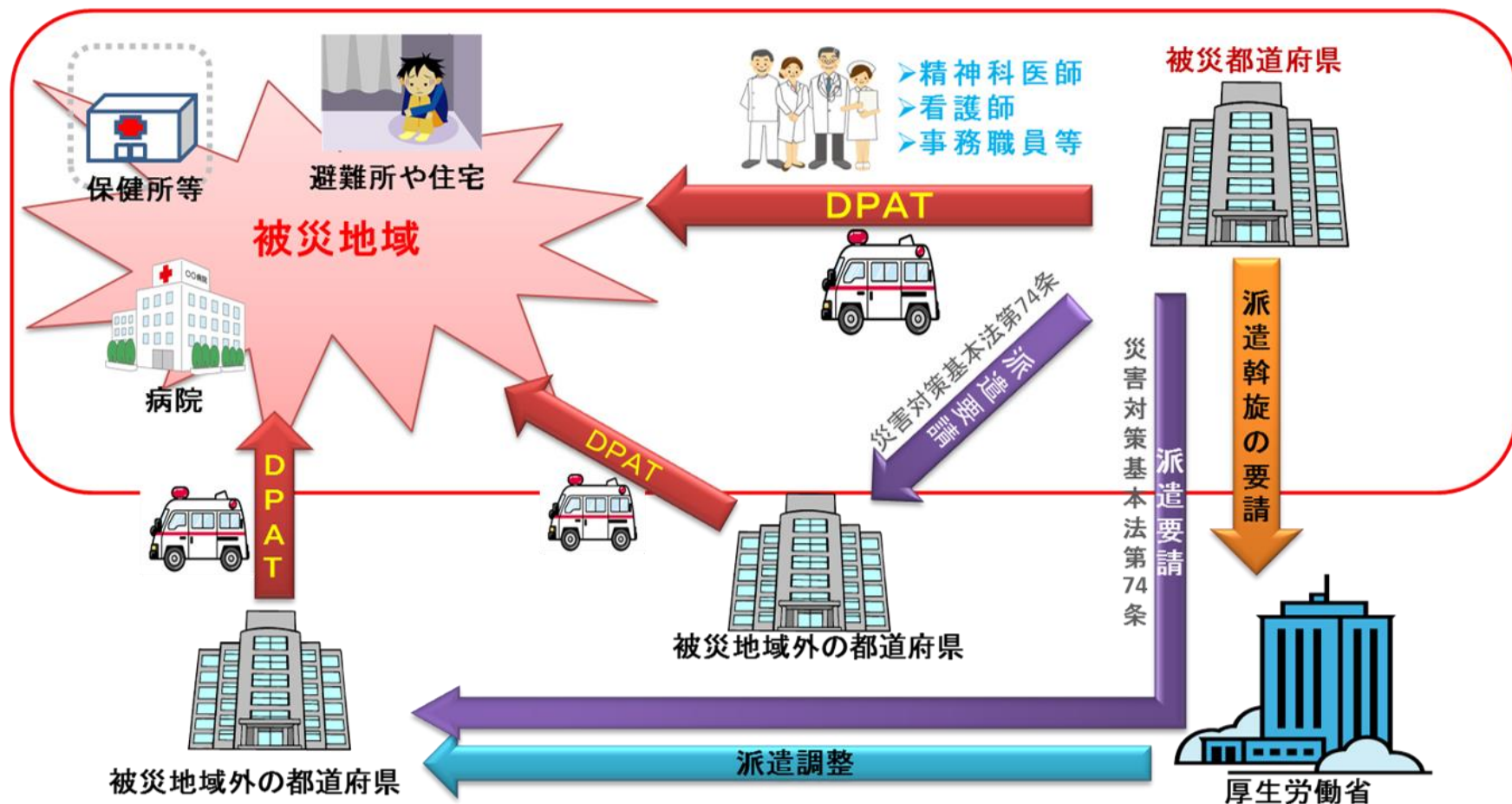
富田が1月4日(木)19時～能登地域を含む石川・富山・福井・新潟の精神科医・心理師を対象に「災害時に精神医療保健従事者がすべきこと、できること」というタイトルで開催、約150名の参加者があり、現地の状況の共有等も含めた情報、意見交換を行った。

■ DPAT先遣隊としての活動



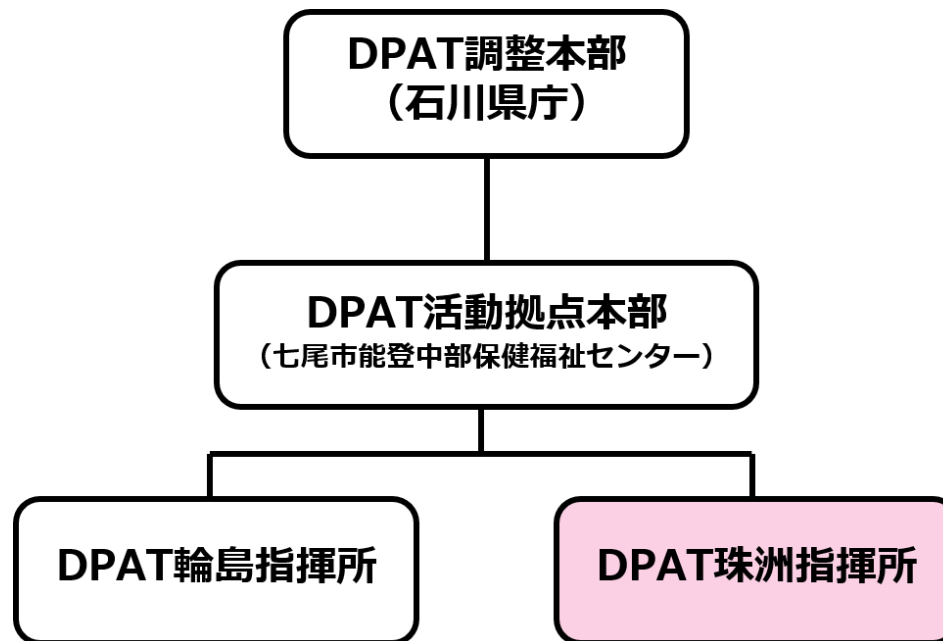
國井は、東北大学と宮城県立精神医療センターの混合チームのリーダーとして宮城県第3陣DPAT先遣隊派遣(令和6年2月1日～同年2月7日)に参加し、珠洲指揮所を拠点に、珠洲市、能登町の避難所等でメンタルヘルス支援活動を行った。

災害派遣精神医療チーム (Disaster Psychiatric Assistance Team: DPAT)



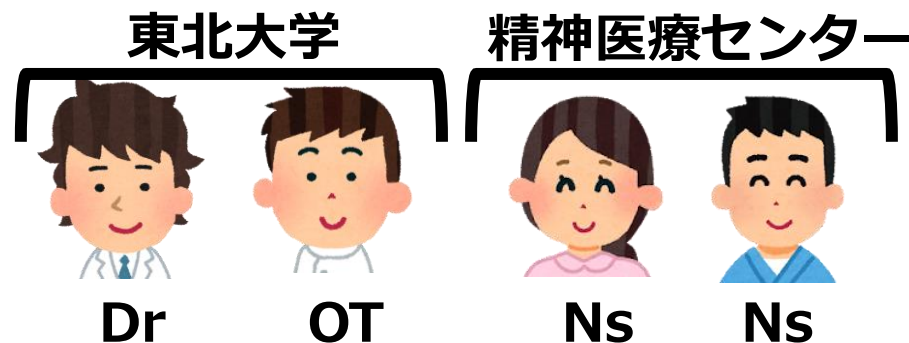
東日本大震災での教訓を経て組織された

DPAT先遣隊（宮城県第3陣）としての活動概要

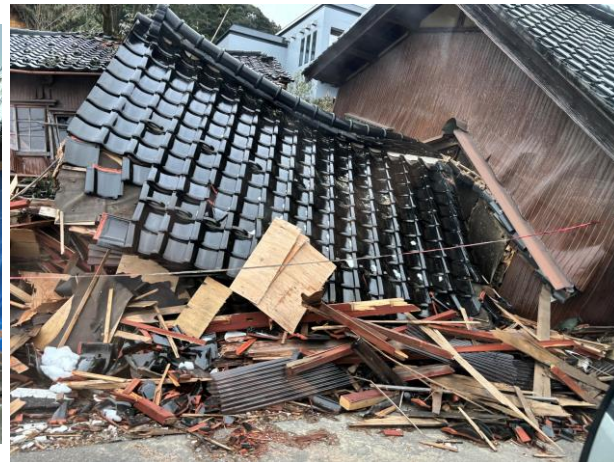


- 東北大学と宮城県立精神医療センターの混合チームとして宮城県第3陣DPAT先遣隊派遣（令和6年2月1日～同年2月7日）に参加し、珠洲指揮所を拠点に、珠洲市、能登町の避難所等でメンタルヘルス支援活動を行った。

チーム構成



珠洲市の被害の様子



DPAT先遣隊（宮城県第3陣）の活動の実際

DPAT活動拠点本部
(七尾市能登中部保健福祉センター)



宿舎



DPAT珠洲指揮所



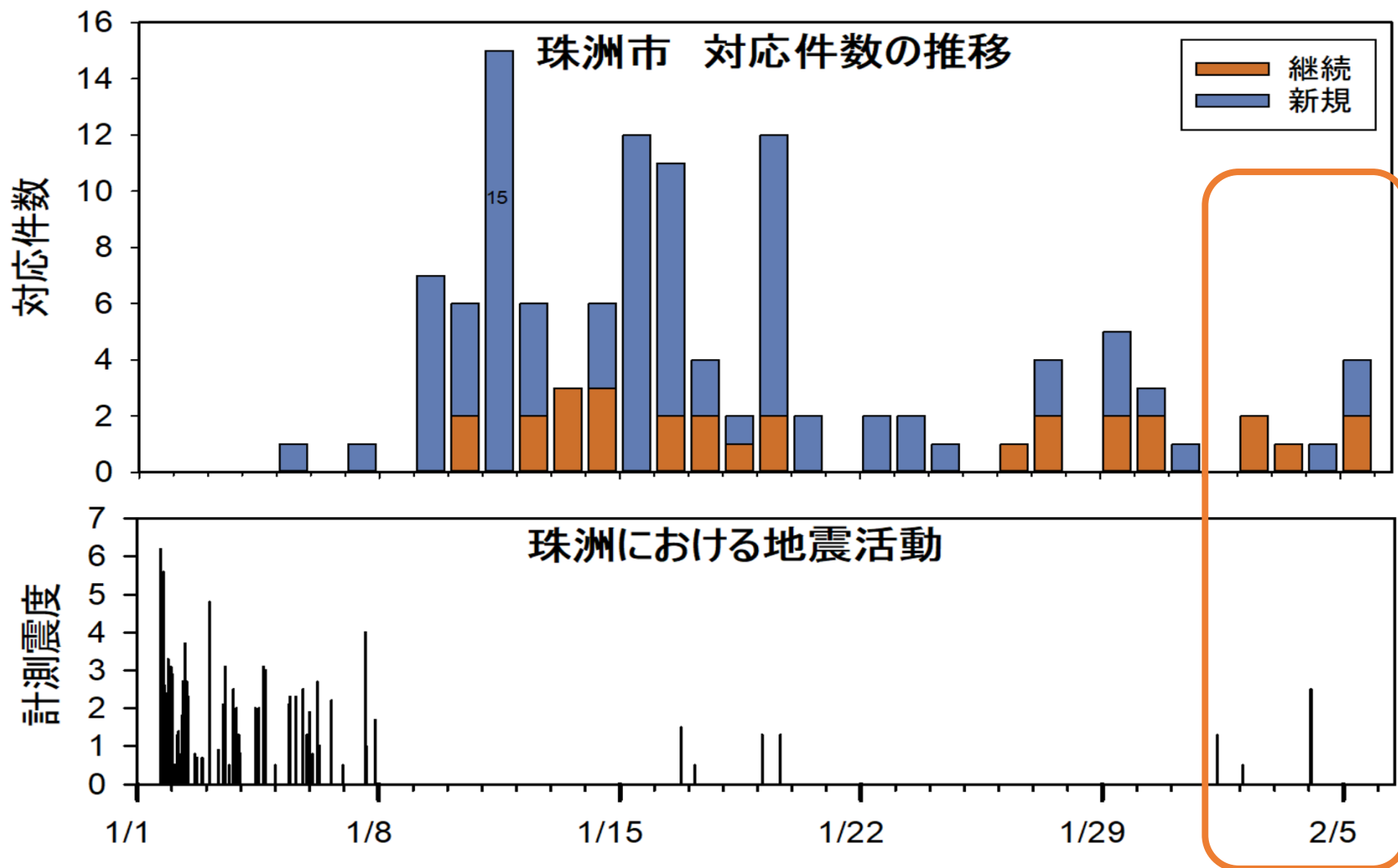
小木福祉避難所



宝立小中学校避難所

※1月5日から支援開始のため、1月1日～4日の期間中はデータなし

総相談件数 115件 (のべ数)



KiK-net珠洲 (ISKH01) における強震観測網データ

計測震度0.5以上の地震を1月1日午前零時から経時的に表示

本震は計測震度 6.2 (震度階級 6強)

余震は1/7の夜(8日の午前零時以前)までに集中していた。

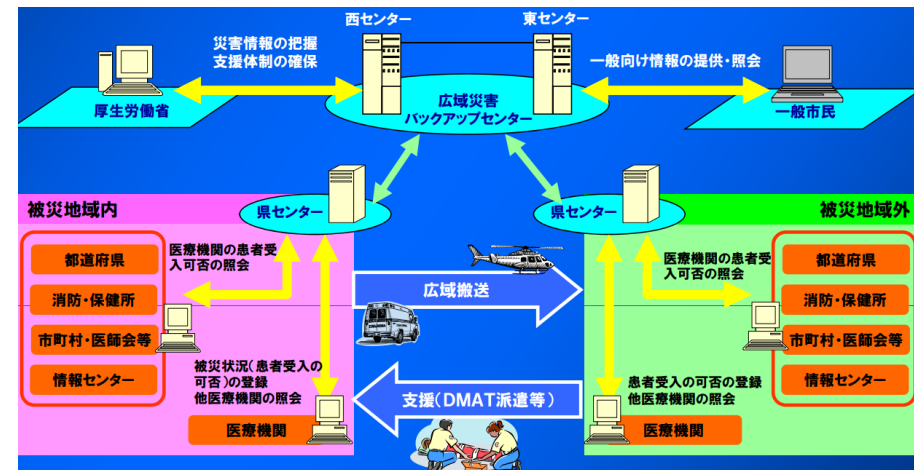
EMIS (Emergency Medical Information System)

「広域災害救急医療情報システム」

EMIS Emergency Medical Information System
広域災害救急医療情報システム

災害時に被災した都道府県を越えて医療機関の稼動状況など災害医療に関わる情報を共有し、被災地域での迅速且つ適切な医療・救護に関わる各種情報を集約・提供することを目的としている。

- 各都道府県システムにおける全国共通の災害医療情報の収集
- 医療機関の災害医療情報を収集、災害時の患者搬送などの医療体制の確保
- 東西2センターによる信頼性の高いネットワーク構成
- 平常時、災害時を問わず、災害救急医療のポータルサイトの役割



珠洲指揮所での活動

総相談件数 186件 (のべ数)

2024年1月5日～2月5日

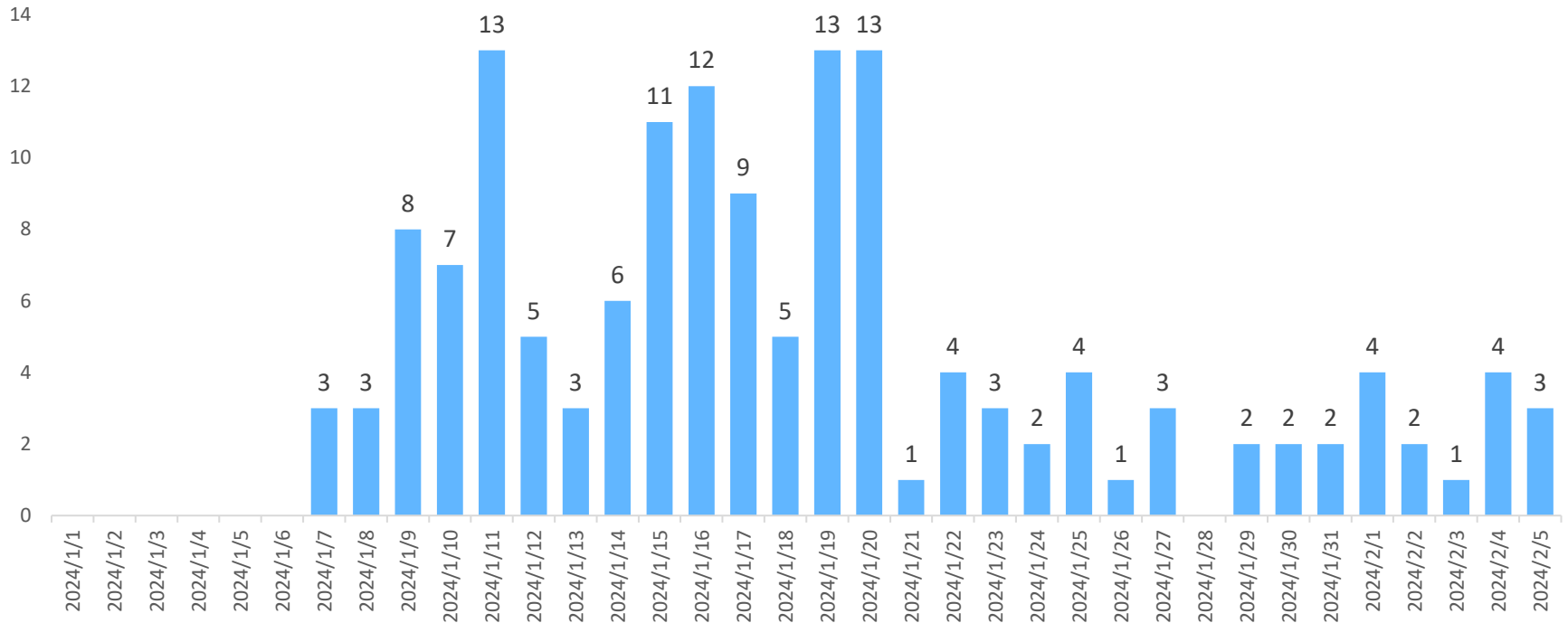
【相談の内訳】

| | |
|------------|------|
| 診察（電話含） | 105件 |
| 診察・処方 | 30件 |
| 診察・入院調整 | 2件 |
| 入所先・搬送対応 | 4件 |
| 避難先調整 | 1件 |
| 対応相談（対支援者） | 7件 |
| 情報交換 | 37件 |

上記のうち「情報交換」を除いた149件の相談について分析

珠洲指揮所 相談件数の推移

(相談件数149件：のべ数)



【性別】

男性 54名

女性 87名

不明 8名

【年齢】

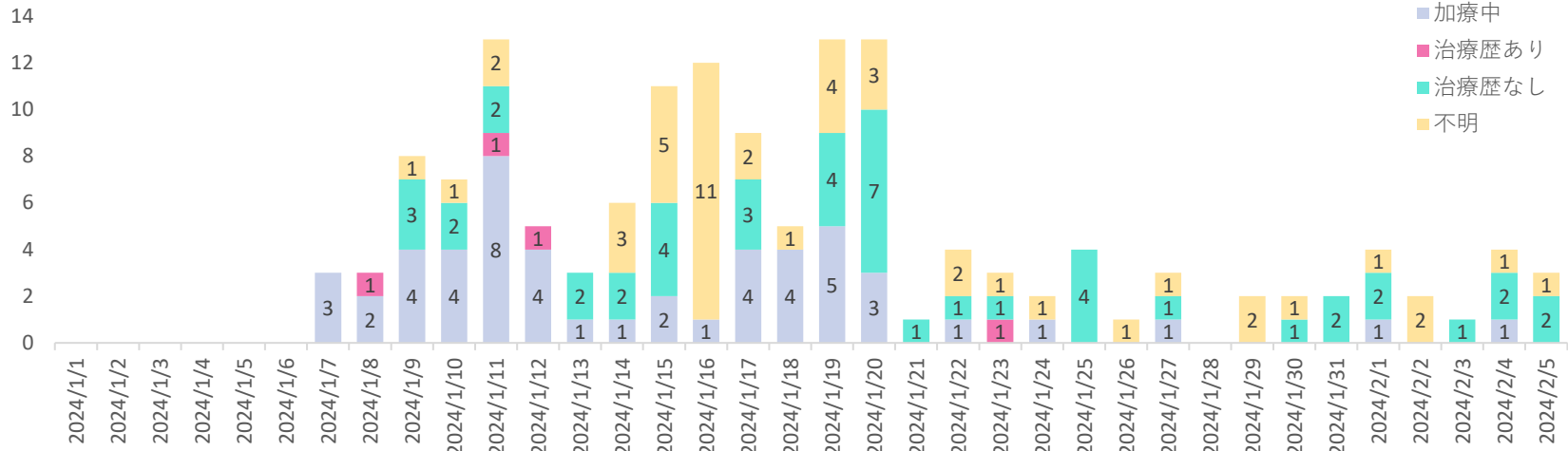
※年齢判明者91名中

平均年齢 66.2歳 (±19.0)

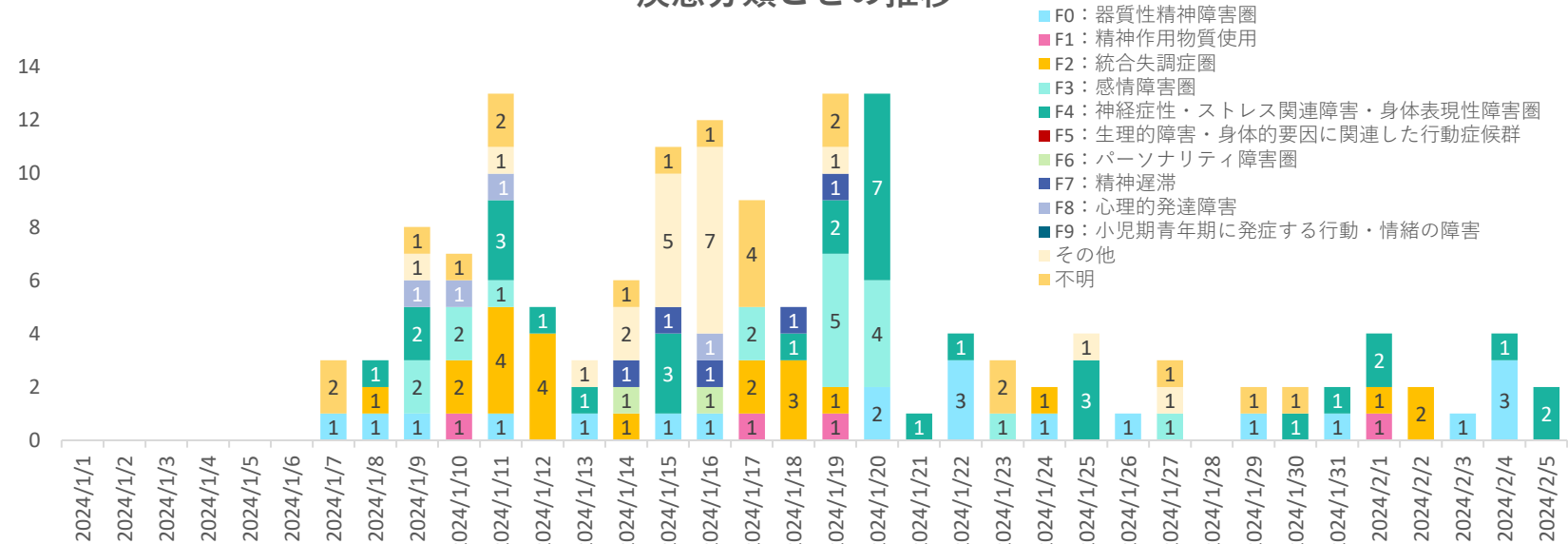
中央値 70歳

最小値14歳 — 最大値 94歳

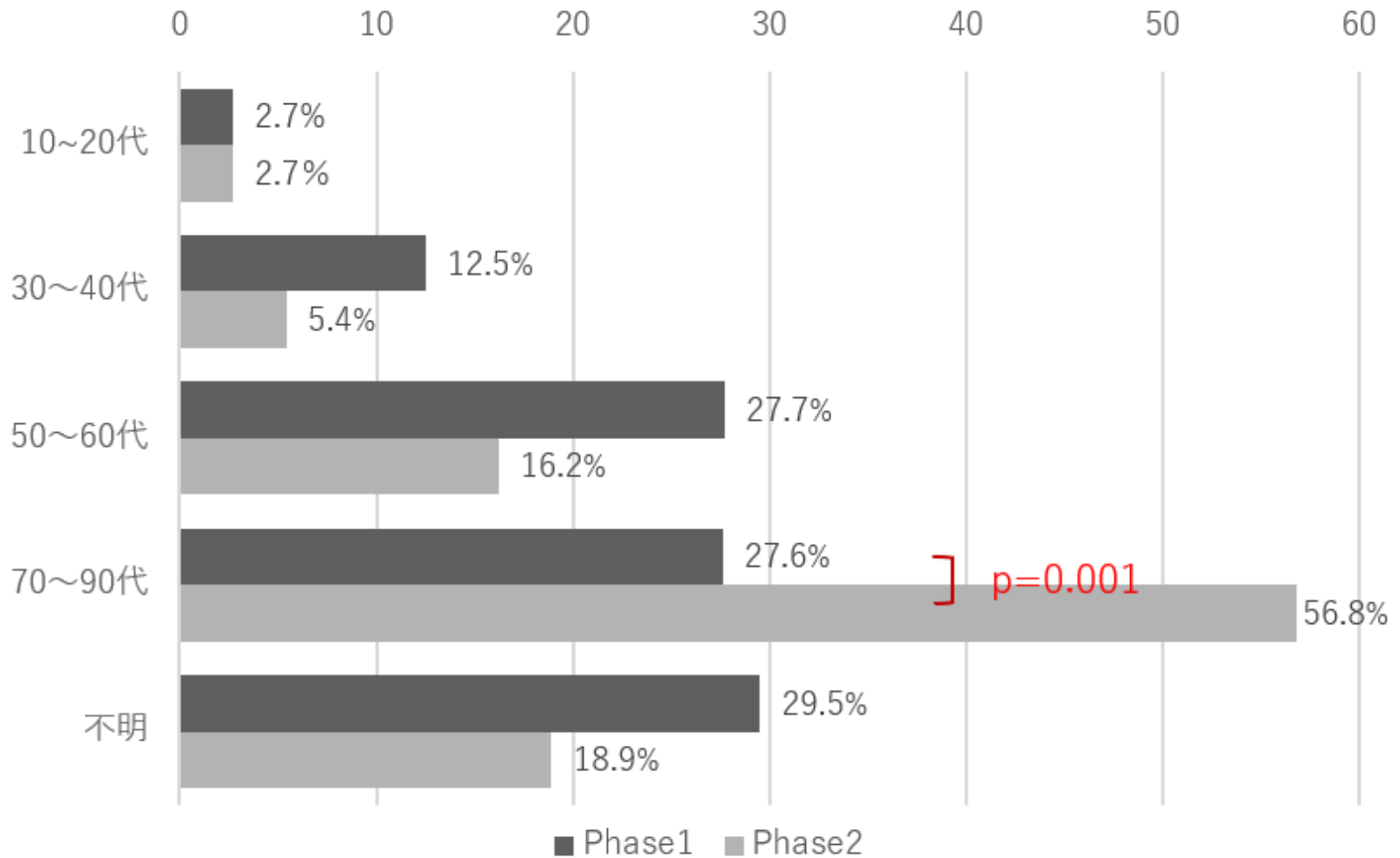
精神科治療歴の有無による分類



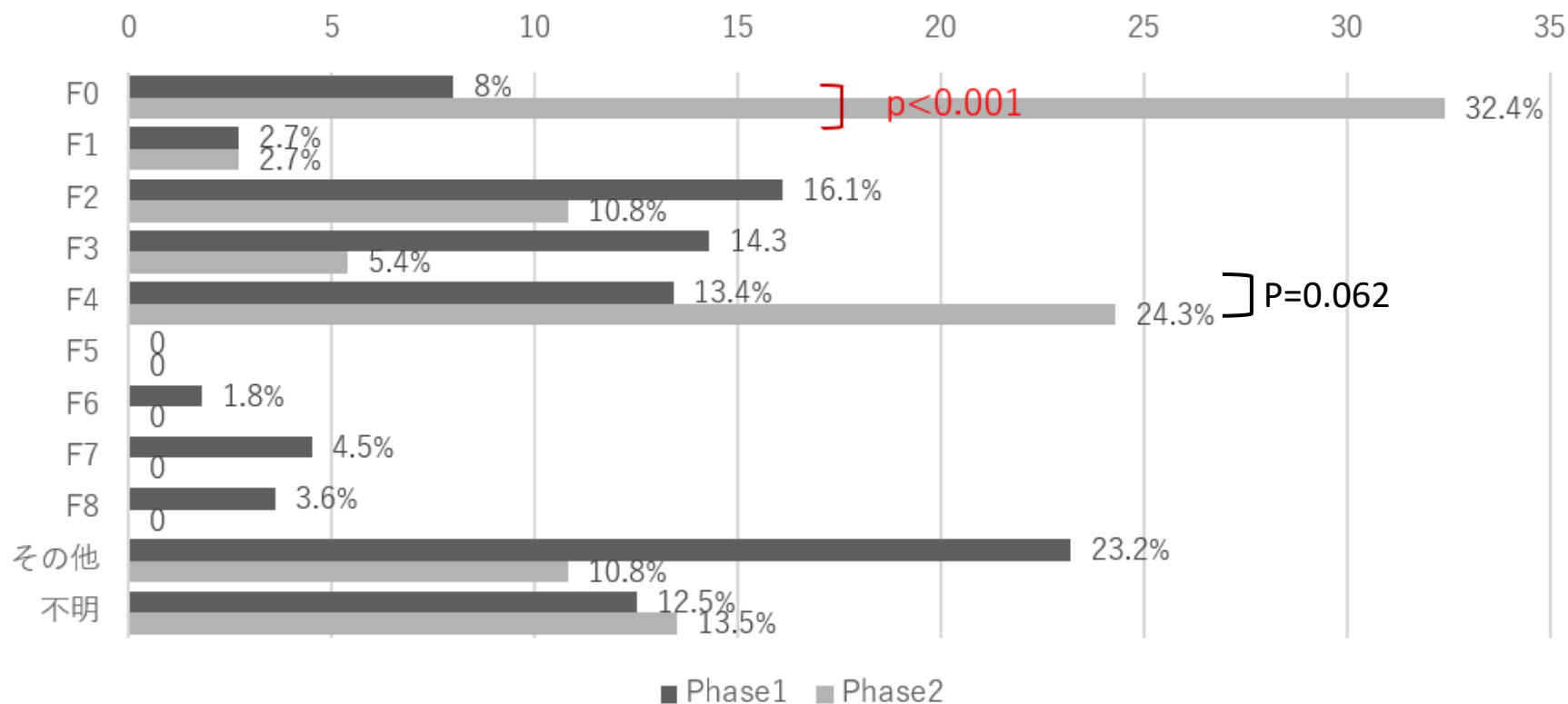
疾患分類ごとの推移



年齢区分の比較



診断分類の比較



※その他の内容「希死念慮」「疲労」「身体疾患」「妊娠中未受診での不安」「避難所での対人関係」「業務負担」「子供に関する不安」「家族の軋轢」

対応したケースの例



こどもの頃からずっと見てきて、
当たり前だった風景がなくなっ
てしまった……。
何もやる気が出ない。

地震のあと、地震が怖く避難所
の布団から離れなくなり、一度
も入浴できていない。
不眠傾向で活気ない。



避難所に入った後も、両親を置
いて逃げてしまったことがずっ
と頭から離れず、罪悪感から不
眠が続いている。



医療支援の観点から見た能登半島地震の特徴

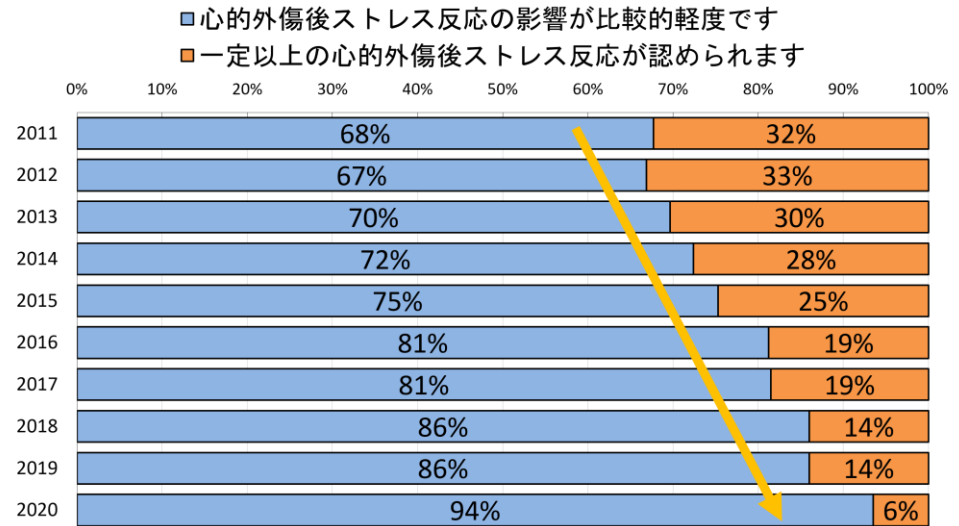
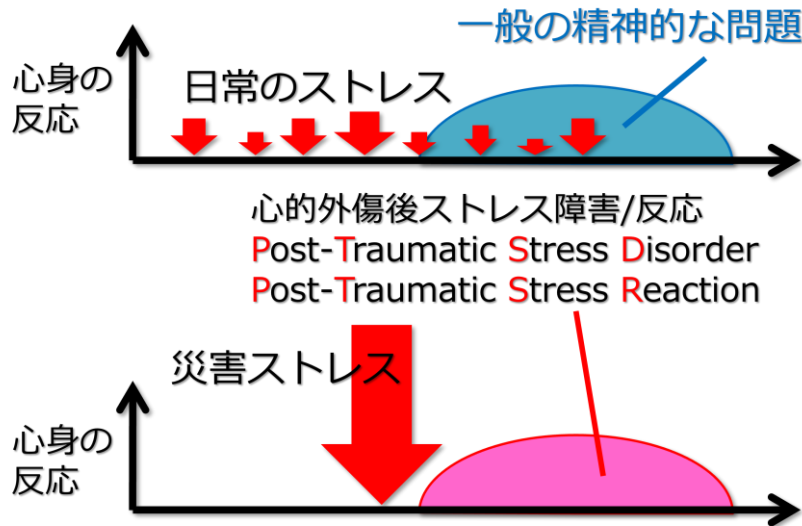
- 今回の震災は東日本や熊本とも異なる特徴的な様相があることに強い印象を受けた。
 - 被災地は高齢化率が非常に高い地域
 - 二次避難がまったく進まない状況
 - 面積が広く人口密度が低いので支援の範囲が広いが、道路網が破壊されているので時間がかかる
 - 上下水道の復旧の見通しが見つからない
- ➔ これらのためDMATが異例に長く活動継続した

大災害によるメンタルヘルスの影響

1 大災害後は急性期を過ぎると不眠、うつ状態、ストレス反応、自殺等のメンタルヘルス問題が広範に生じる

2 その影響は数年以上の長期間にわたって持続する

長期的支援が
必須



震災3年目から心的外傷後ストレス反応を示す人の割合が徐々に下がり始め、震災10年目には6%まで下がった